

校長室だより～和光高校今昔 第27号 H26.11.7

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

体操部と加藤（粕谷）先生

内村航平選手などの活躍に湧いた体操チームは、50年前の東京オリンピック来の「体操ニッポン」復活を期待させている。男子の活躍の陰に隠れてしまったがアジア大会・世界選手権のメンバーにふじみ野（旧大井）高校・石倉あづみ選手が女子ナショナルチームメンバーとして、両国際舞台で奮闘する様子がテレビに流れた。今春からふじみ野高校体操部副顧問として再任用教諭・加藤和江先生が勤務されていることに不思議な縁を感じる。

加藤先生（旧姓粕谷）は、和光高校開校2年目の昭和48年に着任された。浦和一女・埼玉大学と優れたリーダーシップと秀でた実力を備え、それぞれ体操部主将を務めた直後の教員生活1年目であった。体育館も未完成の中すぐに体操部が作られ、顧問として昭和61年まで指導された。この間産休・育休期間をはさむが、優しくとも厳しい卓越した指導力で生徒達を鍛え魅きつけた。特に9・10期生の代は星野、聖望、川女、川商など群雄割拠の西部地区で常に上位入賞を果たした。この間の指導で最も苦慮したのは、不揃いの体操用具と体育館の練習環境であった。ちょうど和光高校運動部全盛期（女子運動部員の基礎体力養成を担ったのも加藤先生であったが）に重なり、練習時間の少なさは致命的であった。二人の息子さんが幼少のころ、相当の無理をおして校内合宿をしていた光景が目につかぶ。家族の協力の下、こうした深夜まで及ぶ練習によって、関・立川・山田・舟山・佐藤（9期）、武藤・星谷・古谷（10期）らが技を磨いていったのだ。



加藤転出後に体操部を継いだのが中込美雪教諭であった。加藤最後の1年間を共有し、素人ながら必死に体操部を守り続けた。無論技術的な指導は難しく、それでもステージ上でタンブリング等に挑戦する姿は健気ともいえた。残念ながら中込後は衰退の一途をたどることとなる体操部は男子部員も入り一瞬復活したようだがその歴史を途絶えさせてしまった。ある意味加藤一代で創り育て上げた和光体操部だったのかもしれない。